

# 令和2年度事業報告書

## ( 概 要 )

年度当初より、新型コロナ感染症拡大を防止するための対策が打ち出され、人々の生活や経済社会に甚大な影響を及ぼしている。特に接客を行う職種等については就業の機会が失われるなどの事案がみられ、現在においても収束の兆しが見えず、先の見通せない状況が続いている。かねてより景気回復の実感が乏しい中で、中小企業の多くは一段と厳しい経営状態を強いられ、雇用の確保や事業の継続までも危ぶまれる事態となっている。

センター実績にもその傾向はみられ、受託事業については企業関係の取り扱いが対前年比で3割ほど減少している。企業が求めるシルバー就業へのニーズは、経費の圧縮と、生産効率を高めることを目的としており、このような状況が今後も継続するとすれば地域の経済に大きな爪痕を残すことが予測される。

政府が描いている「人生100年時代構想」では、我が国は健康寿命が世界一の長寿社会を迎えることを予測しており、教育や雇用制度を含めて人生の長い期間をより充実したものとするべく考えていく必要性が示されている。シルバー人材センター事業については、高齢者が人手不足の悩みを抱える企業を支え、会員拡大等により就業のマッチング機能等を強化するなど高齢者の就業機会の促進を図ることが掲げられており、これに特化した「高齢者現役世代・雇用サポート事業」労働者派遣事業実績は厳しい情勢の中で、前年度並みの実績を計上している。また、目標値を設定して取り組んできた会員の拡大については、未就業会員へ個別の現況把握を行うことで、加齢等の理由により退会された方が多く、結果として会員数の減少に至っている。

センターに課された課題は山積みされている状況ですが、令和2年度の事業の詳細について、以下の資料をもって報告します。